

部落問題を正しく認識

同和教育推進講座が

市内三カ所で開講



山崎氏の講義による第1講座

私たちが生活している社会の中には、著しく基本的人権を侵害されている部落問題が現実に残存しています。

この部落問題を正しく理解、認識し、解消していくために昨年度に引き続き「同和教育推進講座」が、社会福祉センター、大篠公民

館、奈路公民館の三カ所で約百三十人が参加して始まりました。

九月十二日に社会福祉センターで行われた開講式では、鈴江教育長が「一人一人が自分の問題として自分自身が同

和教育解決のために努力を」と参加者に呼びかけ、その後、四国学院大学講師の山崎俊雄氏が講義。午後は班に分かれて学習しました。

今年の推進講座は次のような日程で行われています。

講座	内容	中央	大篠	奈路
部落は、いつ、だれが、何のためにつくったのか		9月12日		
部落差別は、明治以後なぜ残されたのか		9月29日	9月8日	9月27日
部落差別の実態が、現在どのように残っているのか		10月7日		
同和教育解決のため、運動、行政、教育がどのように行われているか		10月18日	9月22日	10月4日
同和教育は私たちの生活と、どのようななかかわり合いがあるか		11月4日	10月6日	10月18日
自分自身、同和教育解決のため、どのように実践、行動、生活をしていくべきか		11月22日	10月21日	11月8日

米消費拡大標語の 入賞作品が決まる

お米のよさを見直し、皆さんにお米を食べてもらおうと標語を募集しましたが、入賞作品が次の作品に決まりました。

■最優秀作品

「米食は 親子の絆 愛の味」

■優秀作品

「さあ今日もおいしいお米で健康家族」

陣山 恒石 種美
土佐市 笹岡利雄

「ごはん！おかわり！手と手が揃ううちの膳」 高知市 山本総
「私ごはんに恋しています」 大浦 武市 清水
最優秀作品については、市役所北側の歩道橋に横断幕にして掲げるほか、この四作品には記念品を贈呈します。

【産業経済課】

あゆみ さしすせそ

家庭教育学級専任講師 田植 静代

「さしすせそ」のお母さんにならないうちに気をつけましょう。

案外「さしすせそ」のお母さんが多いのです。いったい「さしすせそ」とはなんのことでしょうか。

「さしすせそ」のお母さんの話を二つほど挙げてみましょう。

○事例一 三歳ぐらいの女の子が洋服を着ようとしているときの母親の態度。

○事例二 一年生の子供が字の練習をしているときの母親の態度。

この様子について考えてみましょう。

①「花ちゃんそうじゃないの、それは後だよ。ハイ、ボタンをはめて、次はスカートをはきなさい。」
「もう少し字を濃くして書きなさい。ほらまた曲がった。消しゴムで丁寧に消しなさいよ。」
このように一つ一つのことを指図しないとおれないのです。

②「ボタンぐらいさつさとめられないの。○ちゃんはやんと一人でできるのよ。情けないね。」
「もう少しきれいに書きなさい。力が入っていないじゃないの。きちんと書かないかね。」

子供のすることに、すぐ腹が立つてしまいませんか。

③「もうお母さんがボタンはめてあげるから、こちらを向いて。」
「そのところ、お母さんが書いてあげるから、ノートを貸してこらんない。」
すぐ助太刀をしてくれなくなります。

④「ほんとうにおまえは、することが遅いのね。早く靴下をはきなさい。」
「もう少し、しゃんしゃんと書かんかね。遅いねえ。」
と、早く早くとせかします。

⑤「ママ、このエプロンのうさぎちゃん、どうして笑っているの。」
「そんなことは後々、今度お話ししてあげるから今はだめよ。」
「お母さん、この川という漢字はどうしてこのように書くの。」
「それは、お父さんに聞きなさい。」
と、話をそらしてしまうのです。

このように「さしすせそ」をする。「し」は①か。「す」は②すけだちする。「せ」は早く早くとせかす。「そ」は子供の質問をそらすことなのです。

自力でできる子供に育てたいなら、お母さん方は日常の何気ない「さしすせそ」に注意することがたいへんたいせつだと思えます。

子供に育てたいなら、お母さん方は日常の何気ない「さしすせそ」に注意することがたいへんたいせつだと思えます。

第15回文化祭

10月23日～30日

場所 市民体育館

皆さんのお待ちを
さす。

家族”

土佐市 笹岡利雄